Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

(未来医学研究会のいま<特集II>)勉強会・セミナー報告イブニング・セミナー「中国におけるヘルスケア事業について」報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-11-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小林, 純 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00031723

未来医学研究会イブニング・セミナー

「中国におけるヘルスケア事業について」報告

未来医学研究会幹事
東京女子医科大学先端生命医科学研究所
BMC32期修了生
小林 純
Jun Kobayashi

2016年7月13日（水）17時からTWIns 2階イノベーション推進室にて開催された、未来医学研究会イブニング・セミナー「中国におけるヘルスケア事業について」に参加した。本セミナーの告知は、研究会ウェブページ、メーリングリスト、SNS等でなされたが、その結果、関係者を含めて48名、そのうち未来医学研究会とTWInsから25名が参加した。本セミナーの講師は、みずほ銀行産業調査部の稲垣良子氏、岩倉俊介氏の２名が務め、具体的なデータ、資料に基づいた詳細な調査報告であった。本来ならば参加費用が発生するような価値のある内容だが、本セミナーの参加費は無料で聴講でき、これだけでも年会費を納めるインセンティブになると確信した。ちなみに、この企画は、中医協委員を務められている森清一副会長のご尽力で特例的に実現したものであり、医療機器産業における本研究会メンバーの強力な人的ネットワークを改めて実感した。

セミナーの冒頭は、2016年度日本中国文化交流協会大学生訪中団に参加した学生4名による報告から始まった。彼らは、未来医学研究会の先端医療イニシアチブ活動の一環として、東京女子医科大学先端生命医科学研究所より中国に派遣された学生たちである。報告内容は、中国の土地、文化、中国人学生とのコミュニケーションに注目したものであり、昨今マスメディアやインターネット等で流布されているようなものではなく、直接触れ合い感じたことが率直に語られていた。同時に、派遣された学生たちが、将来、この体験をバイオ・医療機器分野で役立てることができるであろうと感じた。また、岡野会長をはじめとするメンバーの前で堂々と報告していた様も頼もしかった（詳細は本誌「先端医療イニシアチブ活動」の報告を参照のこと）。

セミナー前半は、「中国におけるヘルスケア事業の概要と医療サービス市場の動向について」と題して、中国の医療費や疾病などのマクロな情報と、医療政策について概要が解説された。セミナー後半の「中国における医療機器市場動向について」と「中国における医療IT市場動向について」では、具体的な製品に基づいた事例が解説された。特に、2014年から始まる中国政府における医療機器国産化政策と、それに伴う実際の行政の動きについて詳細に説明していた。例えば、画像診断機器市場は、2013年の時点でGE、フィリップス、シーメンス等の外資系企業が大きなシェアを占めていたが、医薬品や医療機器の国産化、公営病院での国産医療機器の優先的利用などの施策により、現在は国産化が進んでいるとのことであった。ただ、政府より国産の定義が明確に定義されていないものの、一般的には、中国で製造され、中国企業の出資比率51%以上であれば国産と見做される。このことを利用したシーメンスの合弁事業や、あるいはGEのように民間病院との業務提携を通した戦略など、中国企業以外の事業展開の実例が示された。自動車産業では合弁会社を通した製造、販売がなされているが、本セミナーを通して、医療機器においても同様の独特な規制が存在することがよく理解できた。また、医療機器の国産化の動向など、今後の政策の展開が気になるところなので、こういったセミナーが随時開催されることを期待する。

未来学研究会は、これまでは研究会大会が活動の中心であったが、2016年度はさらに本セミナーや勉強会の場を提供し、より活性化することができたと思う。今後の課題として、研究会メンバーの興味を惹くようなテーマ設定、最適な開催曜日・時間の模索、積極的な情報発信手法などが挙げられる。本件に関して、皆様からのご意見、アイデアなどがありましたら、未来医学研究会事務局までお気軽にお寄せいただきたい。